

## C等級には「翻訳」の配慮を

四国地方整備局では、施工段階のCIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）試行準備として、建設会社に3次元モデルデータ活用の実態調査を試みた。企画部技術管理課の石田和敏課長は「設計段階から心配はしていたが、C等級の地元建設会社がどこまで3次元に対応できる

### CIMの道筋 変わる発注者意識 9

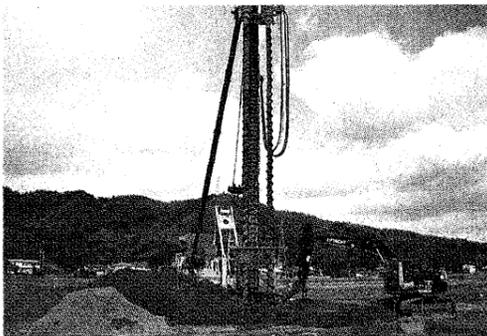
#### 四国地方整備局

か事前に把握しなかった」と明かす。A等級の大手・準大手ゼネコンは、各社とも3次元ツールを保有し、その一部は現場に積極適用している。地場大手と中堅ゼネコンなどで構成するB等級では地元を中心にソフトが未整備の企業が見られた。A等級とB等級の一部ではCIMを実施できる素地が十分にあるものの、C等級は経験のある企業がほとんどなく、対応できない可能性のあることが分かった。

試行対象は、四国横断自動車道立江橋地区内の長さ200m。軟弱地盤対策工事であることから、設計段階には施工管理への3次元モデルデータ活用を計画していたが、施工者に決まった中幸建設（徳島県阿南市）は3次元モデルデータを活用した経験がまった

くなかった。「想定していたことではあったが、われわれのイメージしていた使い方ができない状況となった」（石田氏）。

そこで3次元モデルから杭の位置や長さ、スラリ量などの属性情報を2次元データに置き換え、施工管理に使ってもらえるよう施工者に手渡した。建設コンサルタントを介し、施工で得た数値を3次元モデルデータに反映させることで、施工や品質の管理を可視化するやり方でCIMの試行を進めている。



施工が始まった試行対象の軟弱地盤対策工事

の「かぎを握る」と考えている。四国整備局は13年度に設計段階の新たな試行業務として、道路橋梁の予備設計とトンネルの詳細設計を対象に選んだが、施工者が率先して試行に取り組み希望工事については、稼働中の対象案件に小規模工事が多く、施工者の反応も薄いと考慮し、あえて選定を見送った。

石田氏は「業者のために少しでもハードルの低い試行を心掛けていくが、発注者側にもCIMを活用するためのリテラシーの部分が強く求められる。われわれが使えないと、成果としての3次元モデルデータは台無しになってしまう」と強調する。

#### 【建設ICT】

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経    | 2. 朝日    | 3. 毎日    |
| 4. 読売    | 5. 岐阜    | 6. 中日    |
| 7. 産経    | 8. 静岡    | 9. 伊勢    |
| 10. 中部経済 | 11. 建通   | 12. 日刊工業 |
| ⑬建設通信    | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海  |
| 16. 建設工業 |          |          |